

平成 24 年度全国学力・学習状況調査(抽出調査)  
調査結果報告

平成 25 年 1 月  
川西市教育委員会

## 目 次

### 平成 24 年度全国学力・学習状況調査結果（抽出調査）の概要

- (1) 調査の目的
- (2) 調査対象児童・生徒
- (3) 調査内容について
  - ① 実施教科等
  - ② 実施日
  - ③ 実施時間
  - ④ 実施人数
- (4) 調査結果の見方
- (5) 教科に関する調査結果の概要
  - 【小学校国語】【小学校算数】【小学校理科】
  - 【中学校国語】【中学校数学】【中学校理科】
- (6) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査結果の概要

## 平成 24 年度全国学力・学習状況調査結果（抽出調査）の概要

### (1) 調査の目的

- ◇ 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る
- ◇ そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する
- ◇ 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる

(平成 24 年度実施要領より)

### (2) 調査対象

川西市立小学校のうち、抽出調査対象校第 6 学年児童 (3 校)

川西市立中学校のうち、抽出調査対象校第 3 学年生徒 (3 校)

### (3) 調査内容等について

#### ① 調査内容

《教科に関する調査》(国語、算数・数学、理科)

##### ● 国語、算数・数学

A : 主として「知識」に関する問題

- 身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容
- 実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能

B : 主として「活用」に関する問題

- 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
- 様々な課題解決のための構想を立て、実践し、評価・改善する力

##### ● 理科

理科については、A : 主として「知識」に関する問題と B : 主として「活用」に関する問題を一体的に問う

《生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査》

##### ● 児童生徒に対する調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

##### ● 学校に対する調査

指導方法に関する取り組みや人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

#### ② 実施日

平成 24 年 4 月 17 日 (火)

### ③ 実施時間

#### ● 小学校

1 時限目 (45 分)	2 時限目 (45 分)	3 時限目 (45 分)	4 時限目 (45 分)	
国語A(20分) 算数A(20分)	国語B(40分)	算数B(40分)	理科(40分)	児童質問紙 (20分程度)

※ 児童質問紙は、4時限目終了後以降に、各学校の状況に応じて実施。

#### ● 中学校

1 時限目 (50 分)	2 時限目 (50 分)	3 時限目 (50 分)	4 時限目 (50 分)	5 時限目 (50 分)	
国語A (45 分)	国語B (45 分)	算数A (45 分)	算数B (45 分)	理科 (45 分)	生徒質問紙 (20分程度)

※ 生徒質問紙は、5時限目終了後以降に、各学校の状況に応じて実施。

### ④ 実施人数

小学校	国語A・B	算数A・B	理科	児童質問紙
第6学年児童	249名	249名	249名	248名
中学校	国語A・B	数学A・B	理科	生徒質問紙
第3学年生徒	561名	560名	562名	556名

### (4) 調査結果の見方

※ 調査結果で示している平成24年度の川西市の数値は、川西市全体の数値を示すものではなく、平成24年度全国学力・学習状況調査において、抽出調査対象となった本市小学校3校、中学校3校在籍の児童生徒全員（実施した児童生徒）の平均を表したものです。

※ 経年比較として示している平成22年度の川西市の数値は、平成22年度全国学力・学習状況調査において、抽出調査対象となった本市小学校5校、中学校2校在籍の児童生徒全員（実施した児童生徒）の平均を表したものです。

※ ここでいう「全国平均」とは、上記同様に、平成24年度全国学力・学習状況調査において、抽出調査対象となった全国の小中学校（公立学校）在籍の児童生徒全員（実施した児童生徒）の平均を表したものです。

※ 分析の際の基準の考え方

本市児童生徒と全国平均との比較は、次を基準としています。

+5.1%以上（上回る）、±5.0%（同程度）、-5.1%以下（下回る）

(5) 学力調査結果の概要

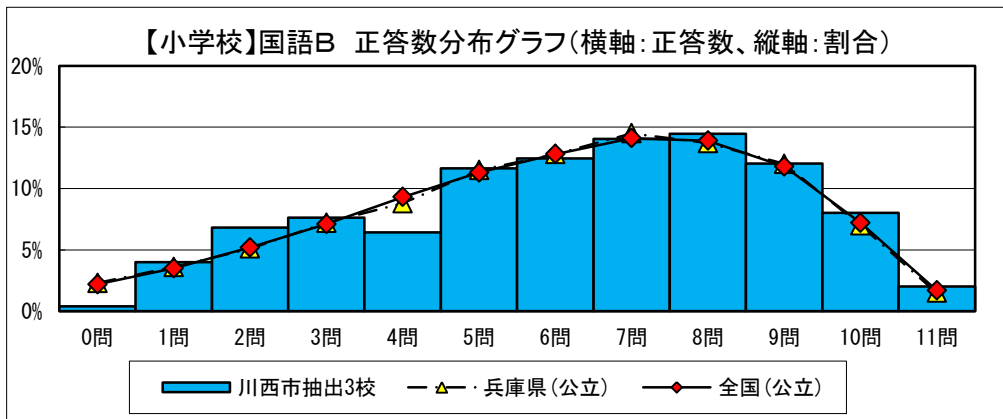
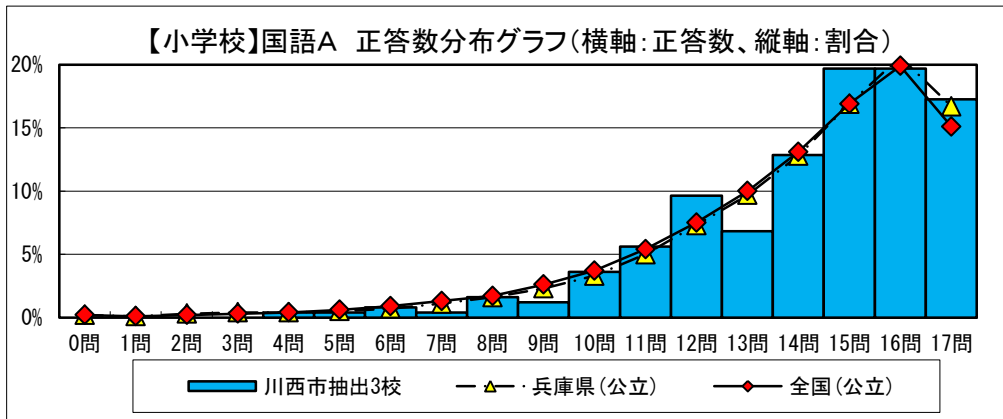
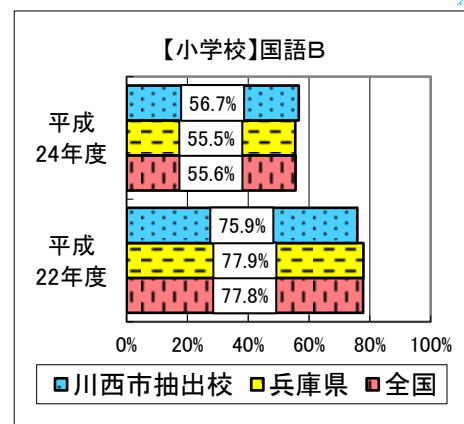
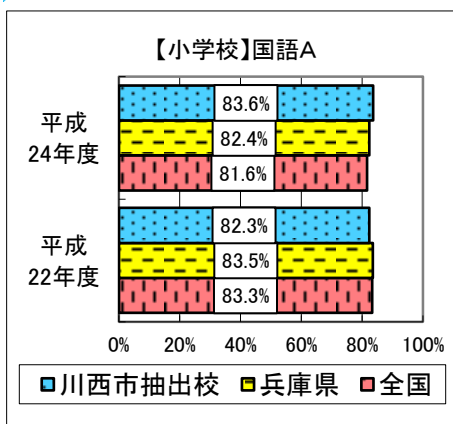
【小学校国語】

- 国語A（知識）及び国語B（活用）の平均正答率及び正答数分布グラフ

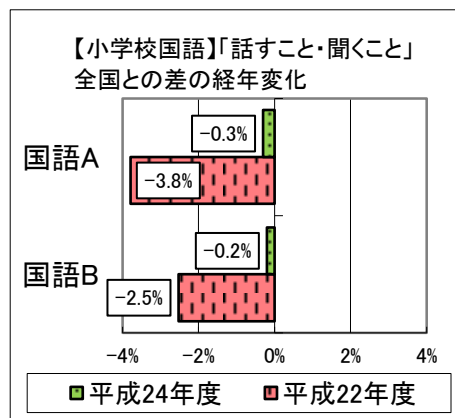
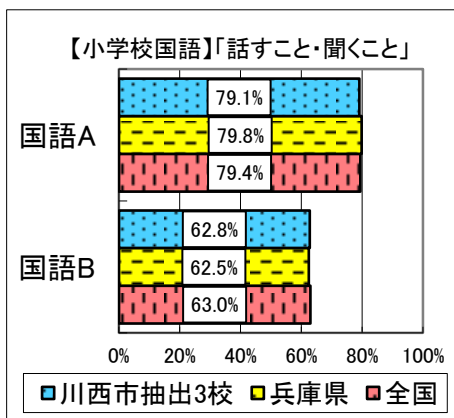
川西市抽出校 3 校の平均正答率は、国語A（知識）・国語B（活用）ともに全国と同程度である。

22 年度実施では、全国と比較し、国語A（知識）が 1.0 ポイント、国語B（活用）が 1.9 ポイント低い、24 年度については、国語A（知識）が 2.0 ポイント、国語B（活用）が 1.1 ポイント高い。

また、正答数分布についても、兵庫県・全国とほぼ同様の分布傾向である。



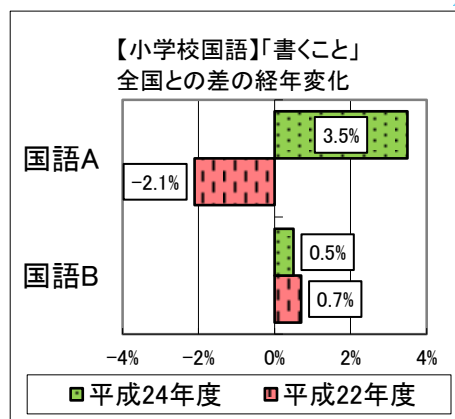
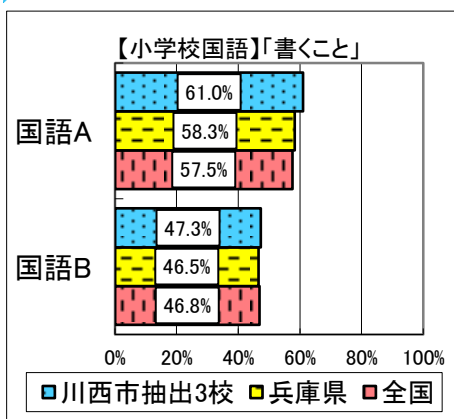
○ 領域・事項別正答率及び全国との差の経年変化



川西市抽出校3校の「話すこと・聞くこと」領域の平均正答率は、国語A（知識）・国語B（活用）ともに全国と同程度の結果である。

22年度実施では、全国と比較し、国語A（知識）が3.8ポイント、国語B（活用）は2.5ポイント低く、24年度については、国語A（知識）が0.3ポイント、国語B（活用）は0.2ポイント低いが、国語A（知識）・国語B（活用）ともに全国との差が縮まっている。

◇（A・B）話し合いの中から必要な情報を取り出すことは多くの児童が理解している。

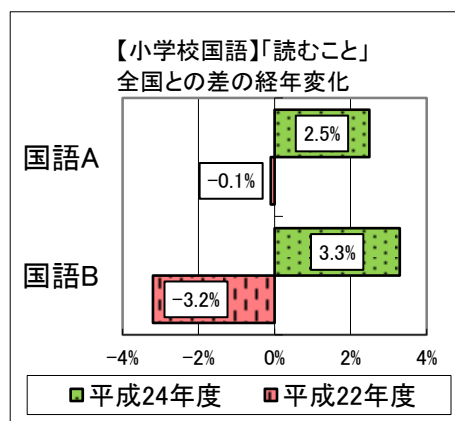
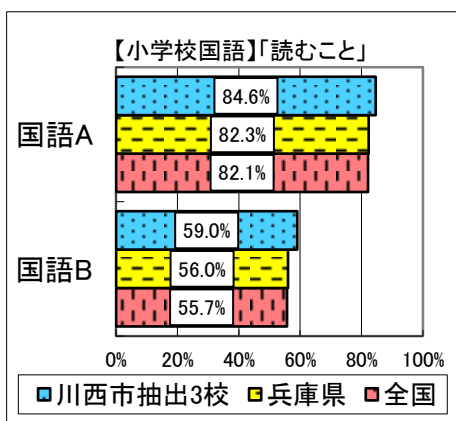


川西市抽出校3校の「書くこと」領域の平均正答率は、国語A（知識）・国語B（活用）ともに全国と同程度の結果である。

22年度実施では、国語A（知識）が2.1ポイント低く、国語B（活用）は0.5ポイント高いが、24年度については、国語A（知識）が3.5ポイント、国語B（活用）は0.5ポイント高い。

◇（B）目的や意図に応じ、書く事柄を整理（選択）することは、多くの児童が理解している。

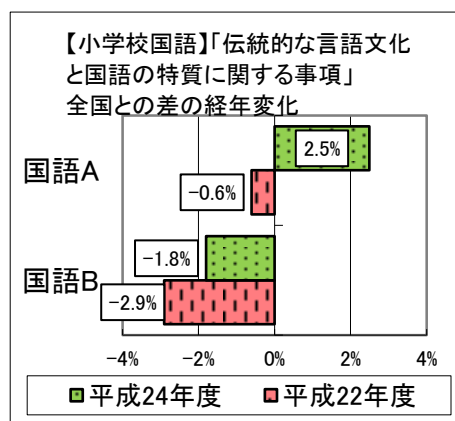
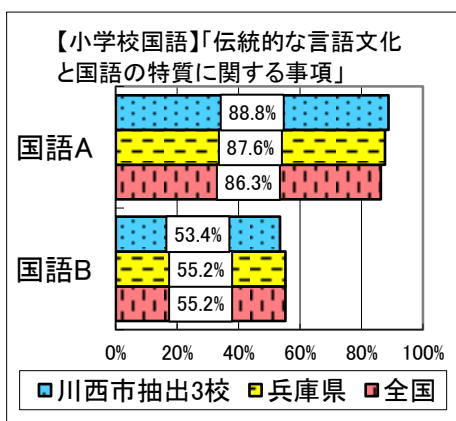
◆（B）理由となる事実を基に自分の考えを記述することに課題がある。



川西市抽出校 3 校の「読むこと」領域の平均正答率は、国語A（知識）・国語B（活用）ともに全国と同程度の結果である。

22 年度実施では、全国と比較し、国語A（知識）が 0.1 ポイント、国語B（活用）は 3.2 ポイント低いが、24 年度については、国語A（知識）が 2.5 ポイント、国語B（活用）は 3.3 ポイント高い。

◇ (A)目的に応じて中心となる内容を捉えることは多くの児童が理解している。



川西市抽出校 3 校の「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」領域の平均正答率は、全国と同程度の結果である。

22 年度実施では、全国と比較し、国語A（知識）が 0.6 ポイント、国語B（活用）は 2.9 ポイント低いが、24 年度については、国語A（知識）が 2.5 ポイント高く、国語B（活用）は 1.8 ポイント低いが上昇している。

◇ (A)学年別漢字配当表に示されている漢字の読み・書き・筆順は多くの児童が理解している。

※ ◇：多くの児童が理解している内容 ◆：課題のある内容 ( )の記号は、A：国語A B：国語B

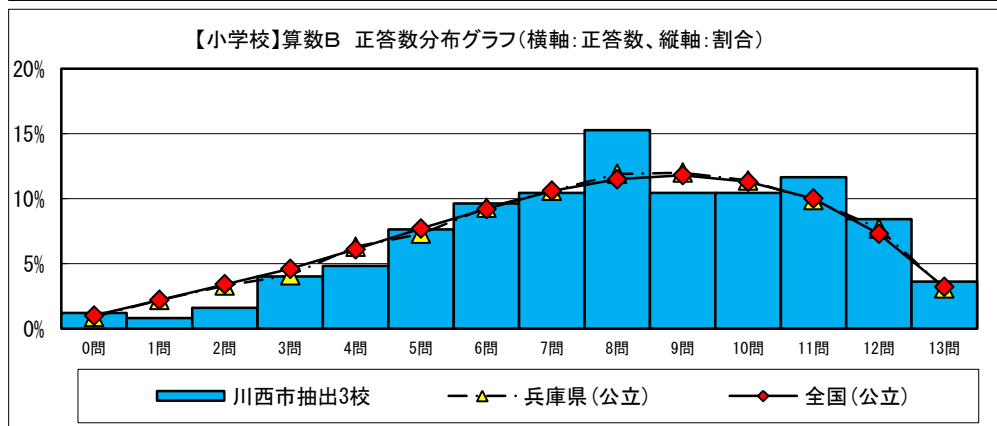
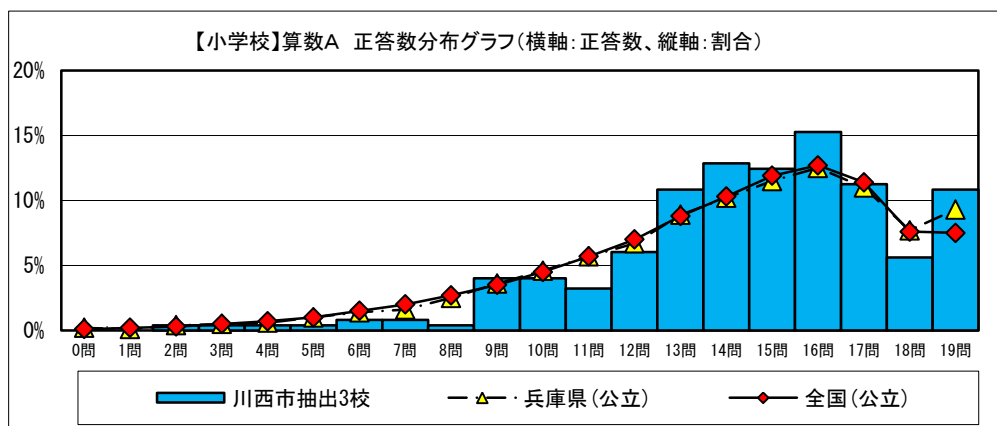
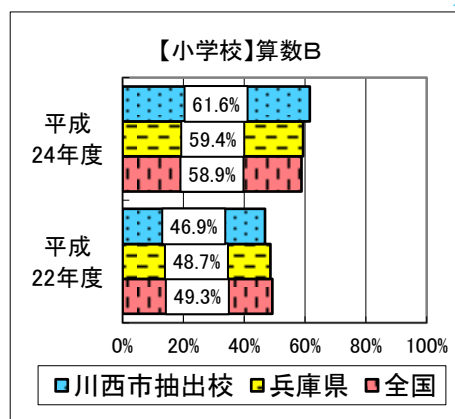
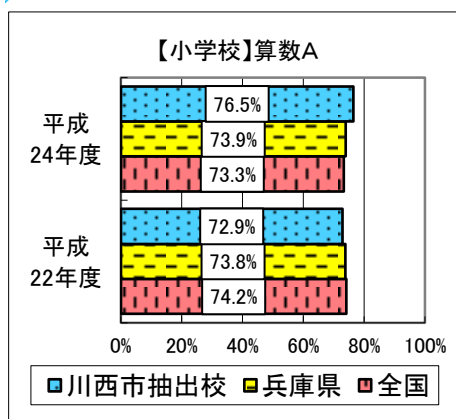
## 【小学校算数】

- 算数A（知識）及び算数B（活用）の平均正答率及び正答数分布グラフ

川西市抽出校 3 校の平均正答率は、算数A（知識）・算数B（活用）ともに全国と同程度の結果である。

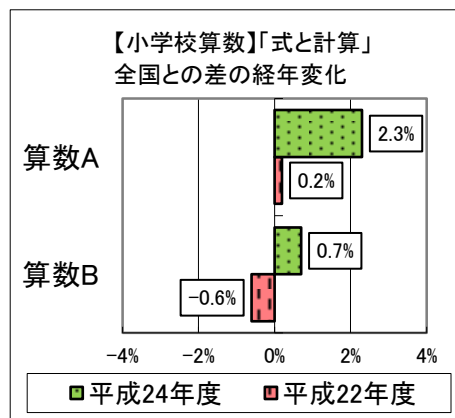
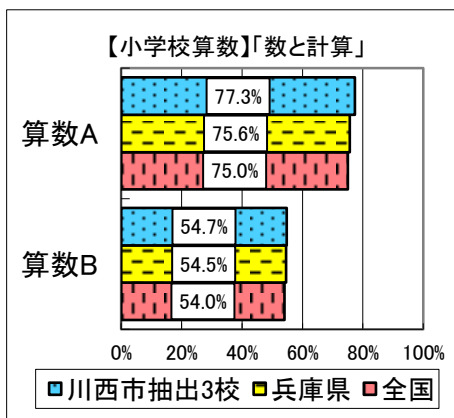
22 年度実施では、全国と比較し、算数A（知識）は 1.3 ポイント、算数B（活用）は 2.4 ポイント低いのが、24 年度については、算数A（知識）は 3.2 ポイント、算数B（活用）は 2.7 ポイント高い。

また、正答数分布についても、兵庫県・全国とはほぼ同様の分布傾向である。





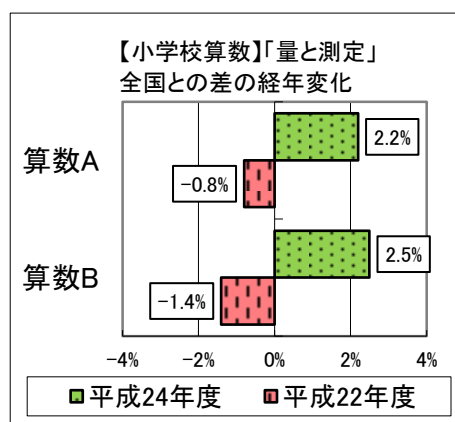
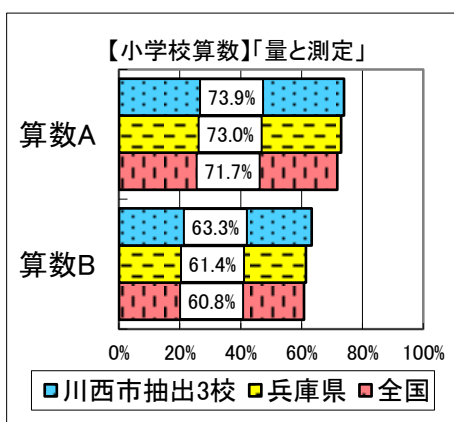
○ 領域別正答率及び全国との差の経年変化



川西市抽出校 3 校の「数と計算」領域の平均正答率は、算数A（知識）・算数B（活用）ともに全国と同程度の結果である。

22 年度実施では、全国と比較し、算数A（知識）は 0.2 ポイント高く、算数B（活用）は 0.6 ポイント低かったが、24 年度については、算数A（知識）は 2.3 ポイント、算数B（活用）は 0.7 ポイント高い。

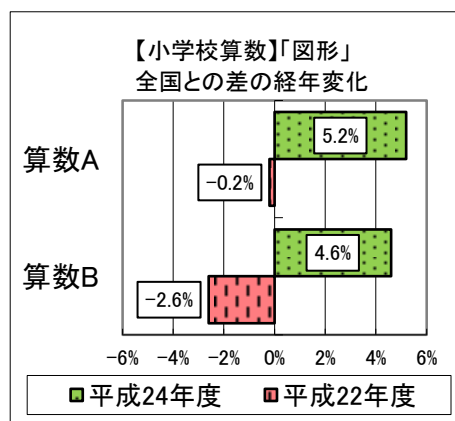
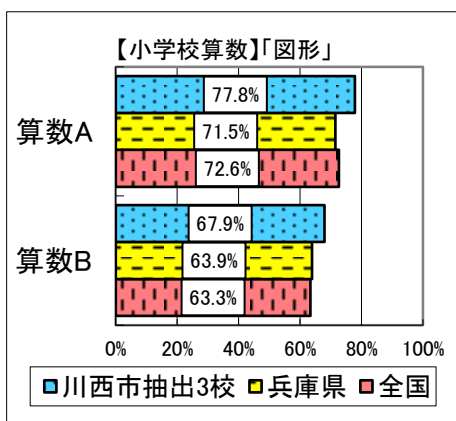
◇ (A)四則計算については多くの児童が理解している。



川西市抽出校 3 校の「量と測定」領域の平均正答率は、全国と同程度の結果である。

平成 22 年度実施では、全国と比較し、算数A（知識）は 0.8 ポイント、算数B（活用）は 1.4 ポイント低いですが、24 年度については、算数A（知識）は 2.2 ポイント、算数B（活用）は 2.5 ポイント高い。

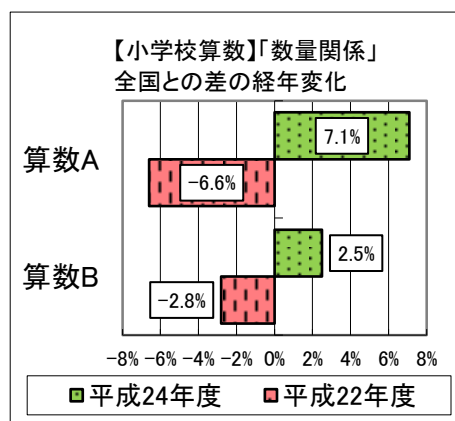
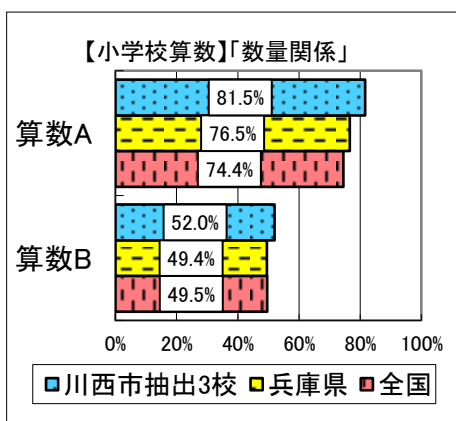
◇ (A)平均の意味を理解し、平均を求めることは多くの児童が理解している。



川西市抽出校3校の「図形」領域の平均正答率は、算数A（知識）は全国を上回る結果であり、算数B（活用）は全国と同程度の結果である。

22年度実施では、全国と比較し、算数A（知識）は0.2ポイント、算数B（活用）は2.6ポイント低いが、24年度については、算数A（知識）は5.2ポイント、算数B（活用）は4.6ポイント高い。

◇ (A)四角形の内角の和が $360^\circ$ であることは多くの児童が理解している。



川西市抽出校3校の「数量関係」領域の平均正答率は、算数A（知識）は全国を上回る結果であり、算数B（活用）は全国と同程度の結果である。

22年度実施では、全国と比較し、算数A（知識）は6.6ポイント、算数B（活用）は2.8ポイント低いが、24年度については、算数A（知識）は7.1ポイント、算数B（活用）は2.5ポイント高い。

◇ 表を用いて、2つの数量関係が比例していることを捉えることは多くの児童が理解している。

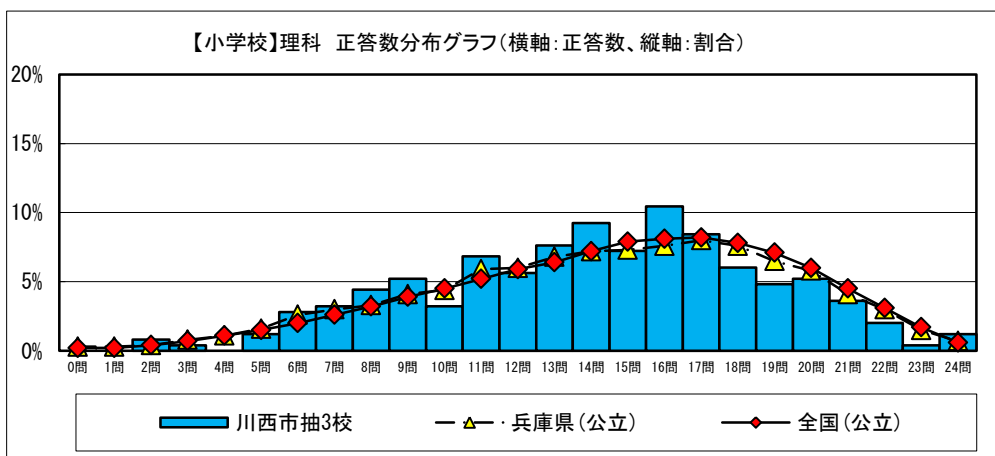
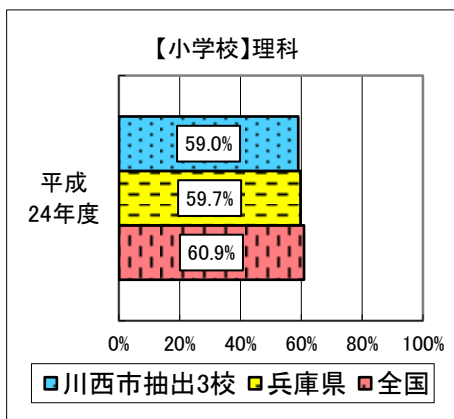
※ ◇：多くの児童が理解している内容 ◆：課題のある内容 ( )の記号は、A：算数A B：算数B

## 【小学校理科】

- 理科の平均正答率及び正答数分布グラフ

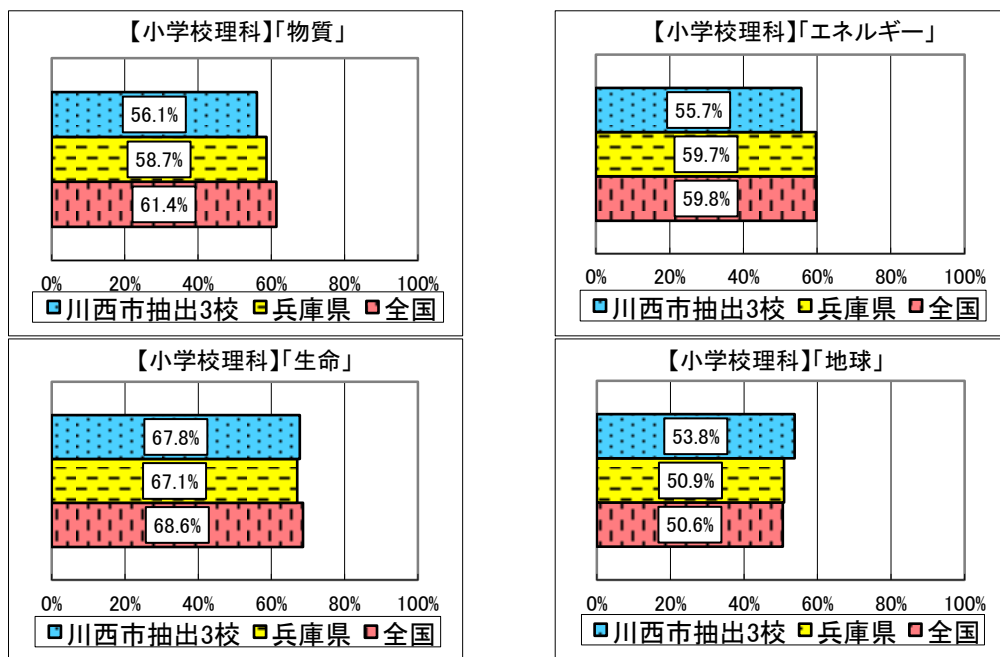
川西市抽出校3校の平均正答率は、全国と比較し1.9ポイント低く、全国と同程度である。

また、正答数分布についても、兵庫県・全国とほぼ同様の分布傾向である。



※ 理科については、A：主として「知識」に関する問題とB：主として「活用」に関する問題を一体的に問うているため、1つのグラフにて表記している。

○ 領域別正答率



川西市抽出校3校の「物質」領域の平均正答率は、全国と比較し5.3ポイント低く、全国を下回る結果である。

- ◇ 物は、形が変わっても重さは変わらないことは、多くの児童が理解している。
- ◆ 物は水に溶けたりしても重さは変わらないことについて課題がある。

川西市抽出校3校の「エネルギー」領域の平均正答率は、全国と比較し4.1ポイント低く、全国と同程度の結果である。

- ◇ 光電池や乾電池の働きを強くするための要因は多くの児童が理解している。
- ◆ 電流や電磁石の実験において、既習の内容と関連付けて実験を構想したり、分析したりすることに課題がある。

川西市抽出校3校の「生命」領域の平均正答率は、全国と比較し0.8ポイント低く、全国と同程度の結果である。

- ◇ 既習事項である植物の成長の規則性を他の対象であるサクラに適用することには多くの児童が理解している。
- ◆ 植物の受粉と結実の関係を調べる実験について、実験結果をもとに方法改善し、その理由を記述することに課題がある。

川西市抽出校3校の「地球」領域の平均正答率は、全国と比較し3.2ポイント高く、全国と同程度の結果である。

- ◇ 方位磁針の名称は多くの児童が理解している。
- ◆ 天気の様子と気温の変化の関係についてデータをもとに分析して、その理由を記述することに課題がある。

※ ◇：多くの児童が理解している内容 ◆：課題のある内容

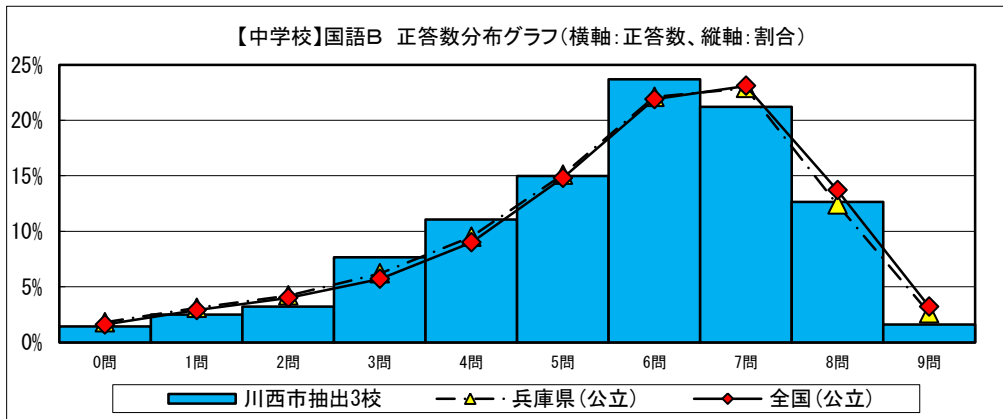
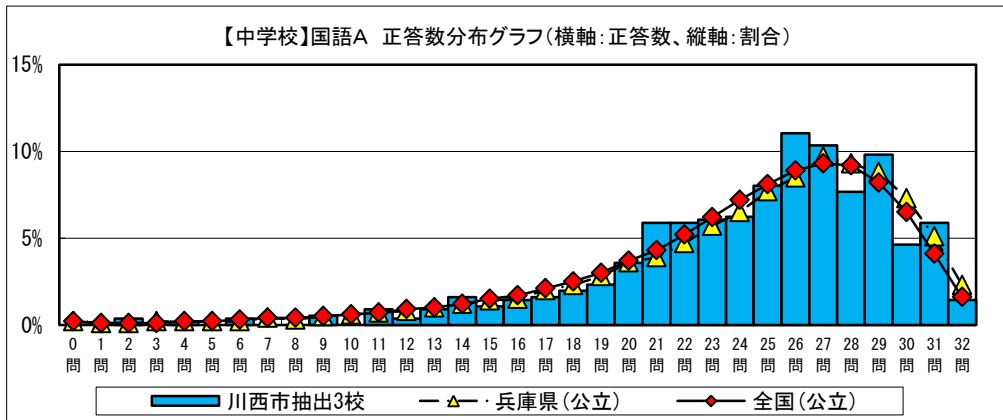
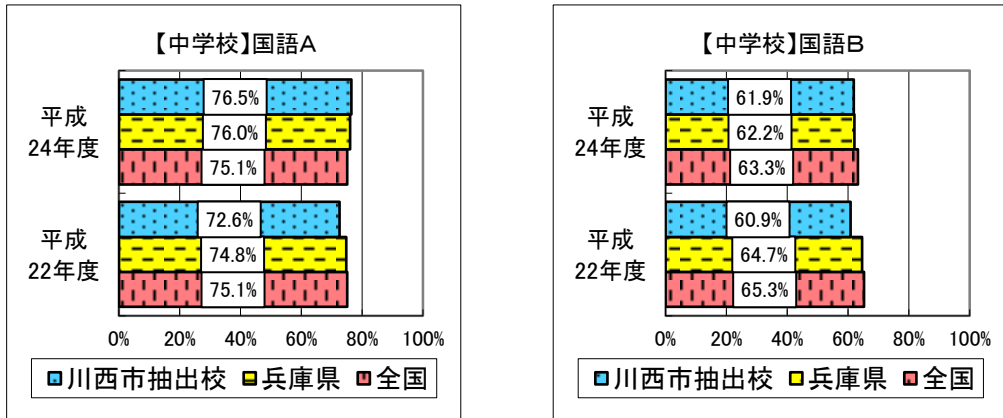
## 【中学校国語】

### ○ 国語A（知識）及び国語B（活用）の平均正答率及び正答数分布グラフ

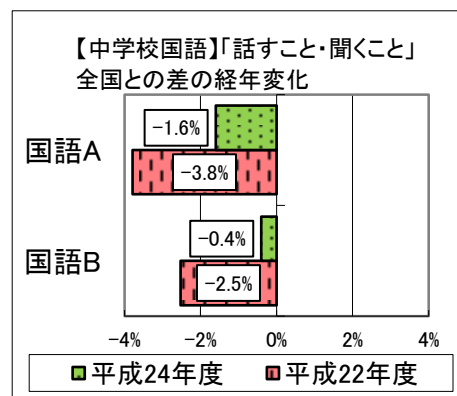
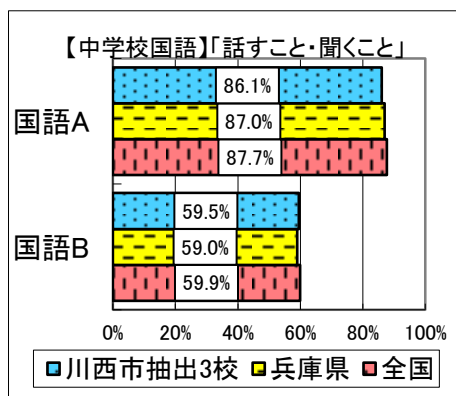
川西市抽出校 3 校の平均正答率は、国語A（知識）・国語B（活動）ともに全国と同程度である。

22 年度実施では、国語A（知識）は 2.5 ポイント、国語B（活動）は 4.4 ポイント低いのが、24 年度については、国語A（知識）は 1.4 ポイント高く、国語B（活動）は 1.4 ポイント低いのが全国との差は縮まっている。

また、正答数分布についても、兵庫県・全国とはほぼ同様の分布傾向である。



○ 領域・事項別正答率及び全国との差の経年変化

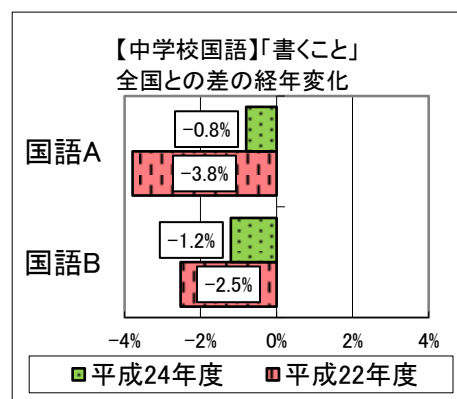
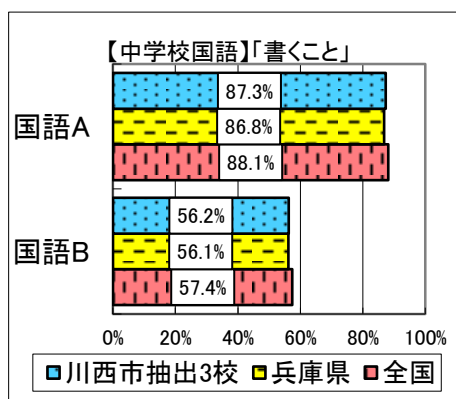


川西市抽出校3校の「話すこと・聞くこと」領域の平均正答率は、全国と同程度の結果である。

22年度実施では、全国と比較し、国語A（知識）は3.8ポイント、国語B（活用）は2.5ポイント低いですが、24年度実施については、国語A（知識）は1.6ポイント、国語B（活用）は0.4ポイント低いですが全国と差は縮まっている。

◇ (A)目的や相手を意識して正しい言葉を選択することは、多くの生徒が理解している。

◆ (B)相手の発言を注意して聞き、自分の考えを書くことに課題がある。

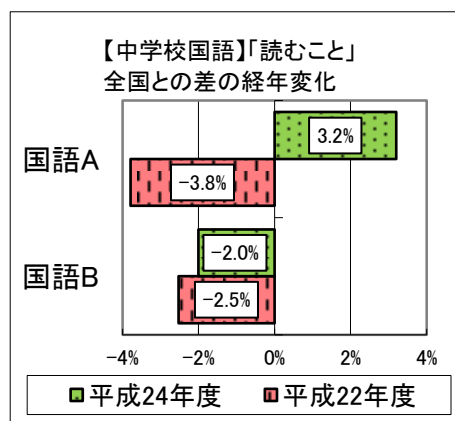
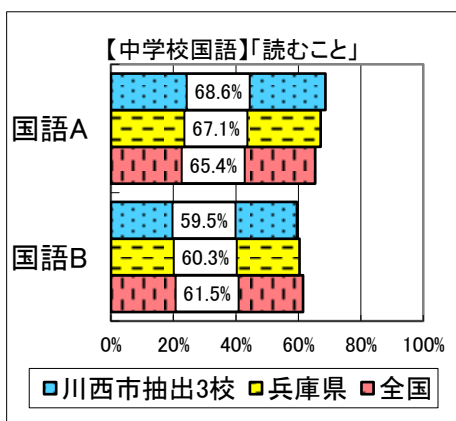


川西市抽出校3校の「書くこと」領域の平均正答率は、全国と同程度の結果である。

22年度実施では、全国と比較し、国語A（知識）は3.8ポイント、国語B（活動）は2.5ポイント低いですが、24年度実施については、国語A（知識）は0.8ポイント、国語B（活動）は1.2ポイント低いですが全国との差は縮まっている。

◇ (A)伝えたい事柄を文章の中から抽出することは多くの生徒が理解している。

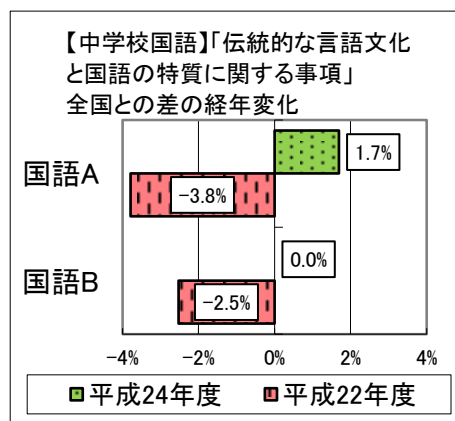
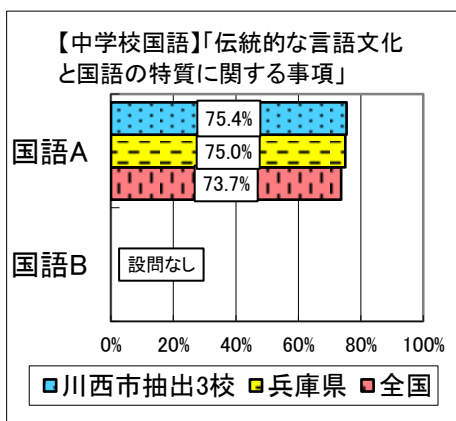
◆ (B)相手の発言を注意して聞き、自分の考えを書くことに課題がある。



川西市抽出校3校の「読むこと」領域の平均正答率は、全国と同程度の結果である。

22年度実施では、全国と比較し、国語A（知識）は3.8ポイント、国語B（活用）は2.5ポイント低いですが、24年度実施については、国語A（知識）は3.2ポイント高く、国語B（活用）は2.0ポイント低いですが全国との差は縮まっている。

- ◇ (A)歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むことは、多くの生徒が理解している。
- ◆ (A)比喩という言葉と結びつけて表現の仕方を理解することに課題がある。



川西市抽出校3校の「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」領域の平均正答率は、全国と同程度の結果である。

22年度実施では、全国と比較し、国語A（知識）は3.8ポイント、国語B（活用）は2.5ポイント低いですが、24年度実施については、国語A（知識）は1.7ポイント高い。

- ◇ (A)ローマ字を書いたり、読んだりすることは、多くの生徒が理解している。

※ ◇：多くの生徒が理解している内容 ◆：課題のある内容 ( )の記号は、A：国語A B：国語B

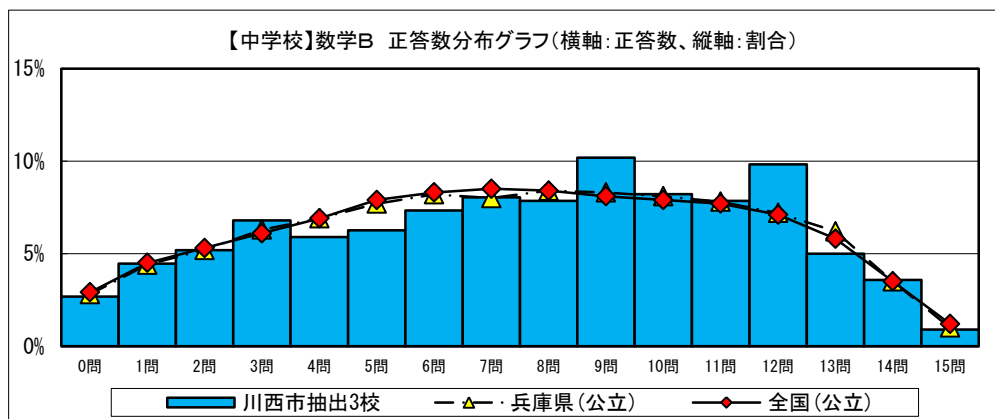
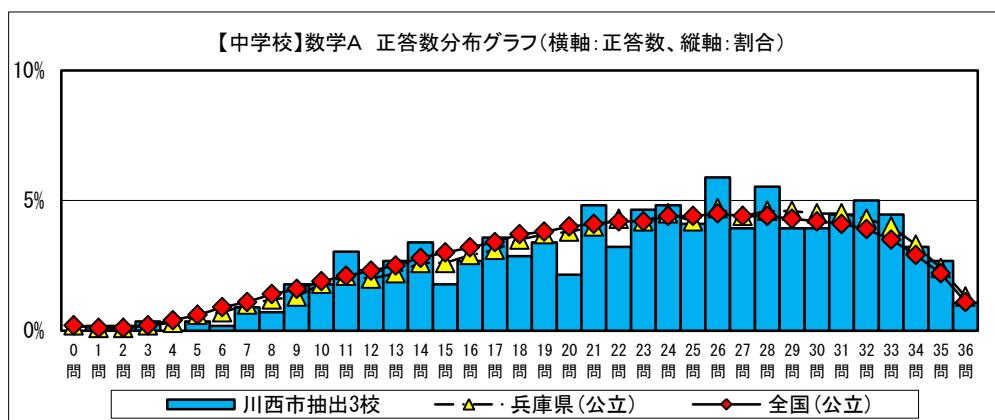
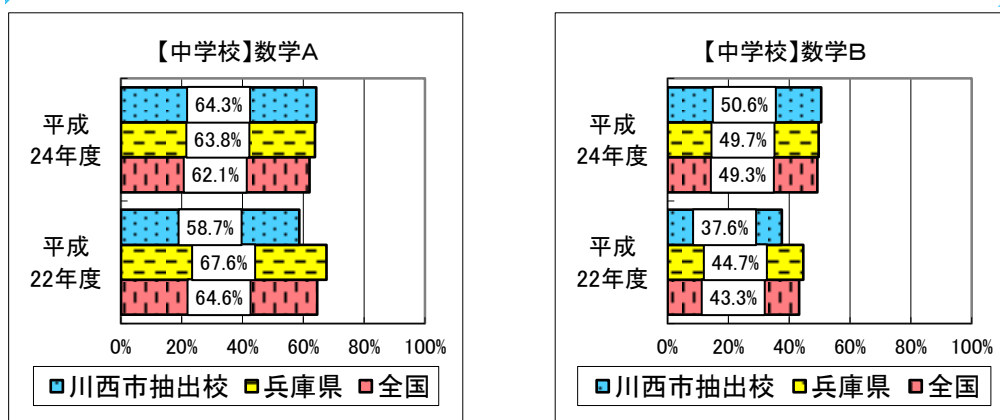
## 【中学校数学】

- 数学A（知識）及び数学B（活用）の平均正答率及び正答数分布グラフ

川西市抽出校 3 校の平均正答率は、数学A（知識）・数学B（活用）ともに全国と同程度である。

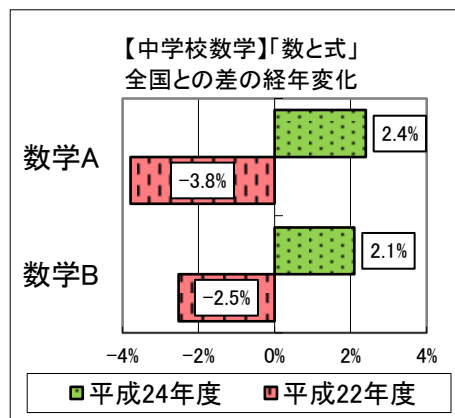
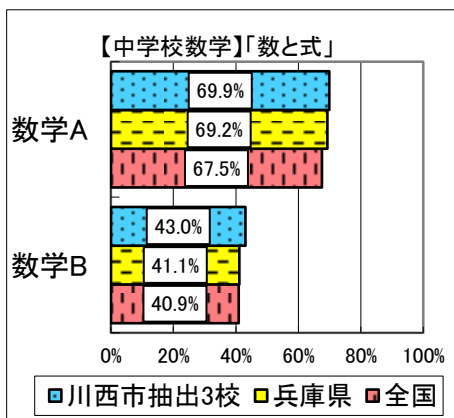
22 年実施では、全国と比較し、数学A（知識）が 5.9 ポイント、数学B（活用）が 5.7 ポイント低く全国を下回る結果であったが、24 年度については、数学A（知識）が 2.2 ポイント、数学B（活用）が 1.3 ポイント高い。

また、正答数分布については、兵庫県・全国とはほぼ同様の分布傾向である。





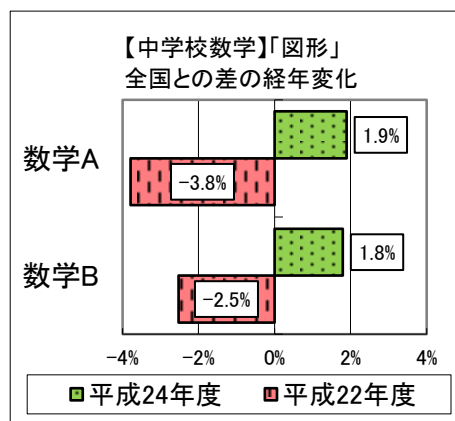
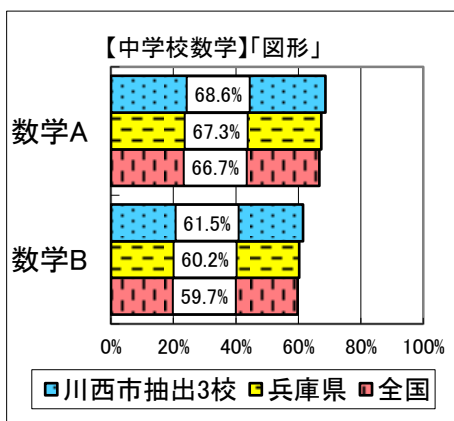
○ 領域別正答率及び全国との差の経年変化



川西市抽出校3校の「数と式」領域の平均正答率は、全国と同程度の結果である。

22年度実施では、全国と比較し、数学A（知識）は3.8ポイント、数学B（活用）は2.5ポイント低いですが、24年度については、数学A（知識）は2.4ポイント、数学B（活用）は2.1ポイント高い。

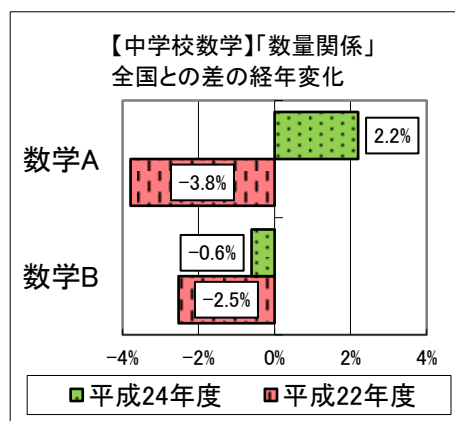
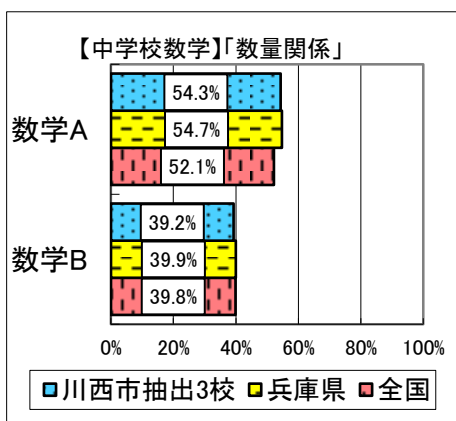
- ◇ (A)正負の数の計算、整式の計算は多くの生徒が理解している。
- ◆ (B)選択した計算式になることを記述して説明することに課題がある。



川西市抽出校3校の「図形」領域の平均正答率は、全国と同程度の結果である。

22年度実施では、全国と比較し、数学A（知識）は3.8ポイント、数学B（活用）は2.5ポイント低いですが、24年度については、数学A（知識）は1.9ポイント、数学B（活用）は1.8ポイント高い。

- ◇ (A)角柱の展開図、回転体の構成は多くの生徒が理解している。
- ◆ (B)導き出した解答を数学的に証明することに課題がある。



川西市抽出校3校の「数量関係」領域の平均正答率は、全国と同程度の結果である。

22年度実施では、全国と比較し、数学A（知識）は3.8ポイント、数学B（活用）は2.5ポイント低いが、24年度については、数学A（知識）は2.2ポイント高く、数学B（活用）は0.6ポイント低いが全国との差は縮まっている。

- ◇ (A) グラフから一次関数  $y=ax+b$  の式を立式することは、多くの生徒が理解している。
- ◆ (A) 資料を整理したものから最頻値を求めることに課題がある。

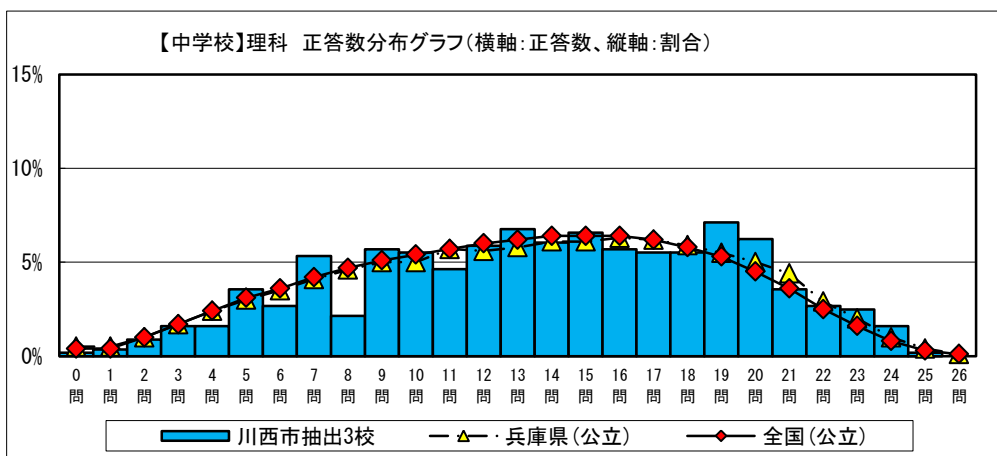
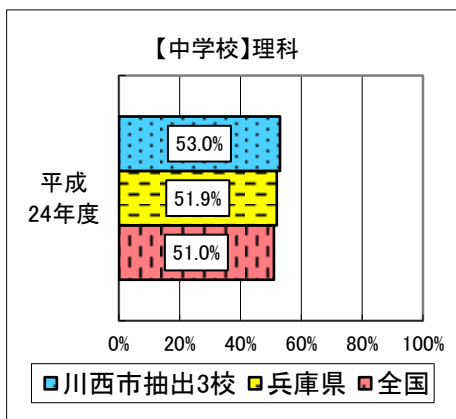
※ ◇：多くの生徒が理解している内容 ◆：課題のある内容 ( )の記号は、A：数学A B：数学B

## 【中学校理科】

- 理科の平均正答率及び正答数分布グラフ

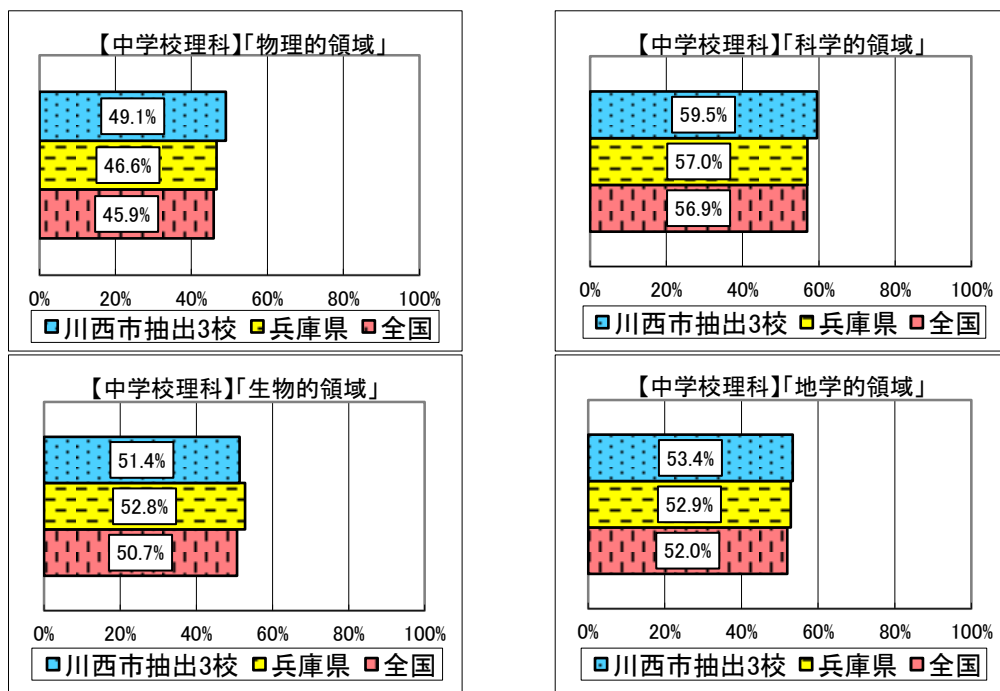
川西市抽出校3校の平均正答率は、全国と比較すると2.0ポイント高く、全国と同程度である。

また、正答数分布についても、兵庫県・全国とほぼ同様の分布傾向である。



※ 理科については、A：主として「知識」に関する問題とB：主として「活用」に関する問題を一体的に問うているため、1つのグラフにて表記している。

○ 領域別正答率



川西市抽出校 3 校の「物理的領域」の平均正答率は、全国と比較すると 3.2 ポイント高く、全国と同程度の結果である。

- ◇ LED電球の省エネ効果の高さは、多くの生徒が理解している。
- ◆ 直列つなぎ・並列つなぎに関する知識を活用して実験方法を検討し正しい測定方法を説明することに課題がある。

川西市抽出校 3 校の「科学的領域」の平均正答率は、全国と比較すると 2.6 ポイント高く、全国と同程度の結果である。

- ◇ 粒子モデルから水溶液の様子を判断することは多くの生徒が理解している。
- ◆ 食塩水がいくらでも濃くできない理由を説明することに課題がある。

川西市抽出校 3 校の「生物的領域」の平均正答率は、全国と比較すると 0.7 ポイント高く、全国と同程度の結果である。

- ◇ 植物の部位の名称については、多くの生徒が理解している。
- ◆ カエルの特徴や成長に応じて飼育の環境を整えた理由を説明することに課題がある。

川西市抽出校 3 校の「地学的領域」の平均正答率は、全国と比較すると 1.4 ポイント高く、全国と同程度の結果である。

- ◇ 石灰岩の見分け方に関する技能は、多くの生徒が理解している。
- ◆ 地層観察の結果から過去の火山活動が活発だった時期の回数について他者の考察を検討し、その根拠を説明することに課題がある。

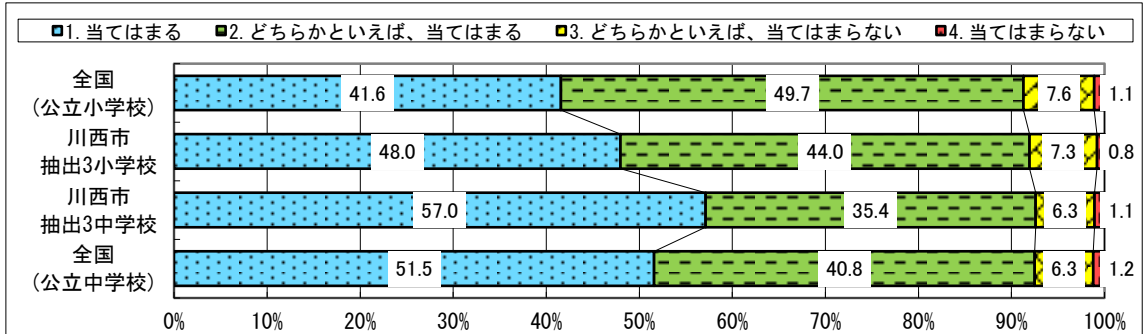
※ ◇ : 多くの生徒が理解している内容 ◆ : 課題のある内容

(6) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査結果の概要

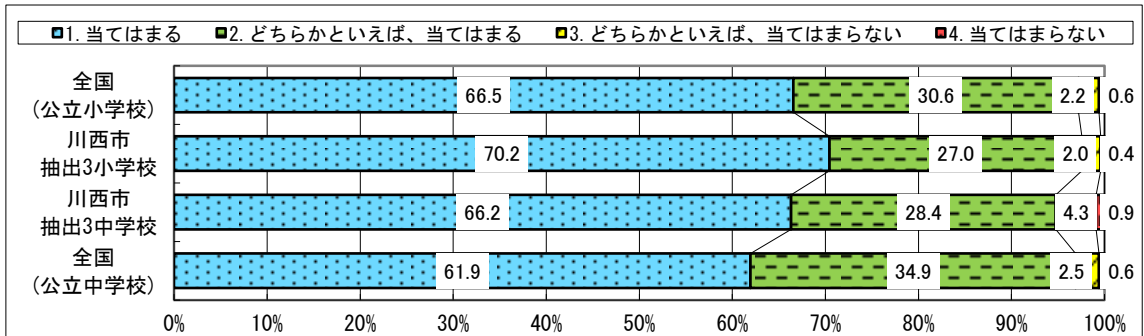
その他、無回答の数値についてはその割合が極端に少ないことから削除しているため、合計値が必ずしも100%にならない。

【規範意識】

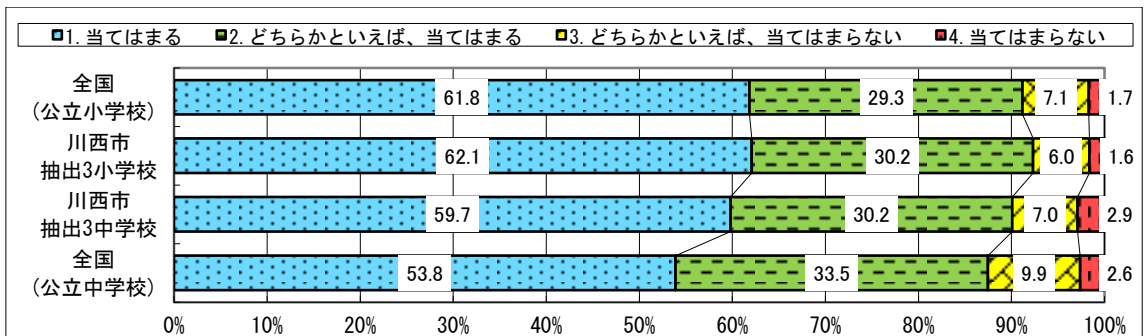
Q1. 学校のきまりを守っていますか



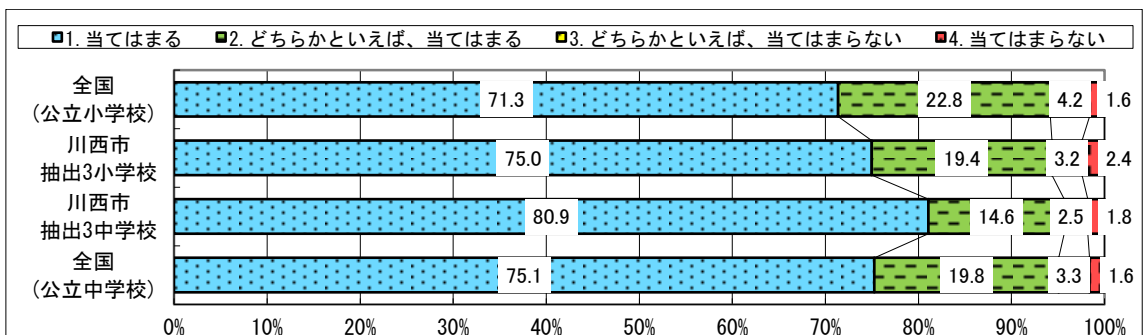
Q2. 友達との約束を守っていますか



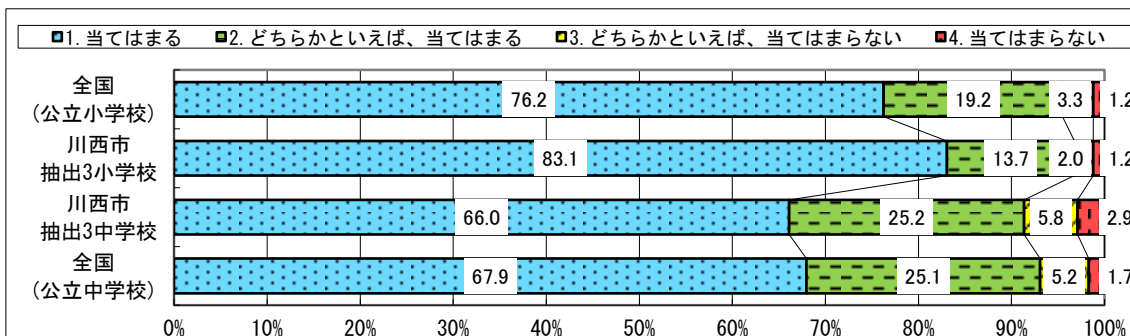
Q3. 近所の人に出会ったときは、あいさつをしていますか



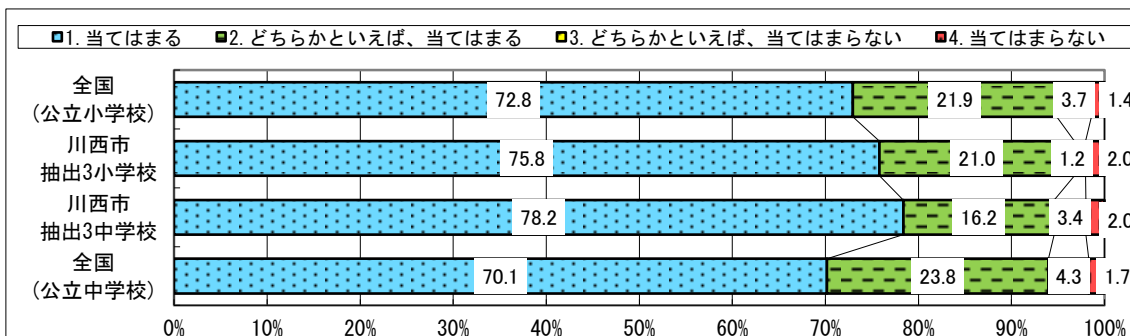
Q4. 人の気持ちが分かる人間になりたいと思いますか



Q5. いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか



Q6. 人の役に立つ人間になりたいと思いますか



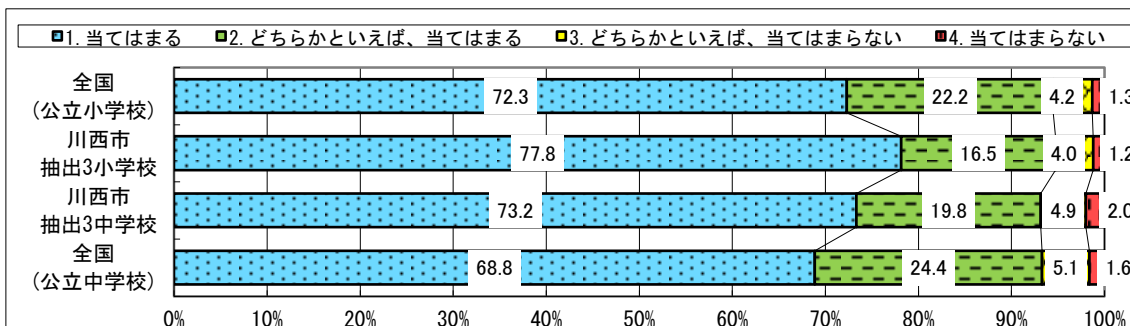
規範意識の領域に関する質問項目について、川西市抽出3小中学校ともに「当てはまる」・「どちらかといえば、当てはまる」の肯定的回答をした児童生徒が約90%を占めており、非常に高い割合を示している。また、全国と比較すると同程度であったが、「当てはまる」と答えた児童生徒が全国よりも5ポイント以上高く、川西市抽出3小中学校の児童生徒は規範意識について高い意識をもっている。今後も、学校・家庭・地域が連携し、この高い意識を伸ばしていくことが大切である。

川西市抽出3小中学校を比較した場合に肯定的回答をした児童生徒の差が5%以上あった質問項目はQ5「いじめ」についてである。

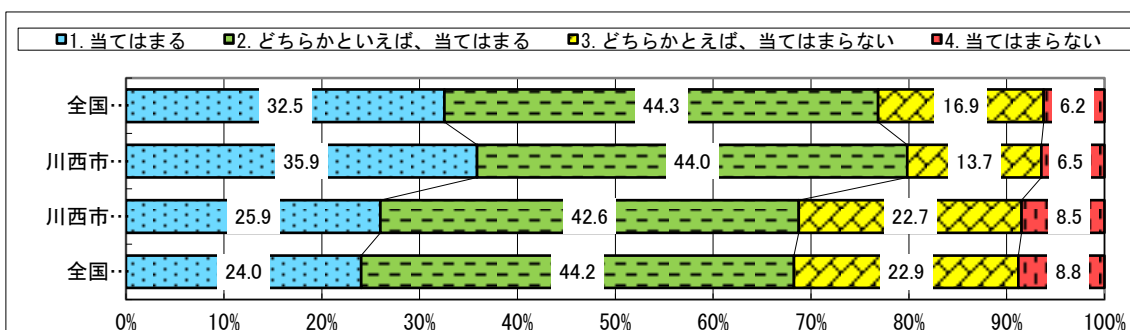
川西市抽出小学生は96.8%が「いじめはどんな理由があってもいけないこと」と回答しているのに対し、川西市抽出中学生は91.2%である。いずれも90%以上の川西市抽出児童生徒が「いじめはどんな理由があってもいけないこと」としているものの、川西市抽出小中学生の差が5.6%に上る。

## 【自尊感情】

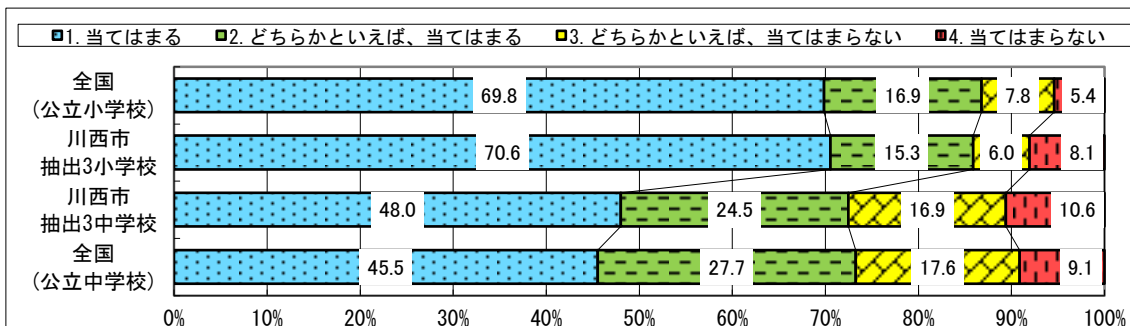
Q1. ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがありますか



Q2. 自分には、よいところがあると思いますか



Q3. 将来の夢や目標を持っていますか



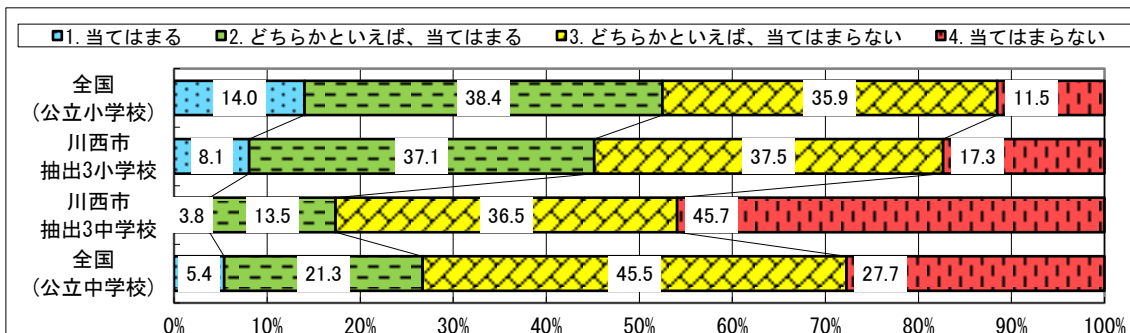
自尊感情の領域に関する質問項目のなかで、「ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがありますか」という質問に対しては、川西市抽出3小中学校ともに肯定的回答をした児童生徒が90%以上であり、多くの児童生徒が達成感をもつことが嬉しいと感じていることといえる。

しかし、Q2の自己肯定感の質問項目については、全国と比較すると同程度ではあるが、肯定的回答が小学生は約80%、中学生は約70%となっており、達成感を感じたことが必ずしも自己肯定感に直結していないことが認められる。

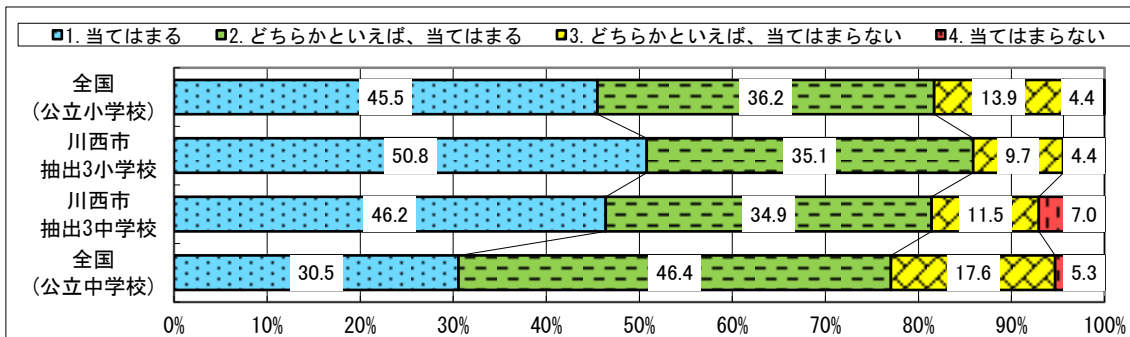
川西市抽出3小中学校を比較した場合に肯定的回答をした児童生徒の差が5%以上あった質問項目は、Q3.「将来の夢や目標」についてである。川西市抽出小学生は約86%が夢や目標があると回答しているが、川西市抽出中学生は約72%となっている。

## 【言語活動・読解力】

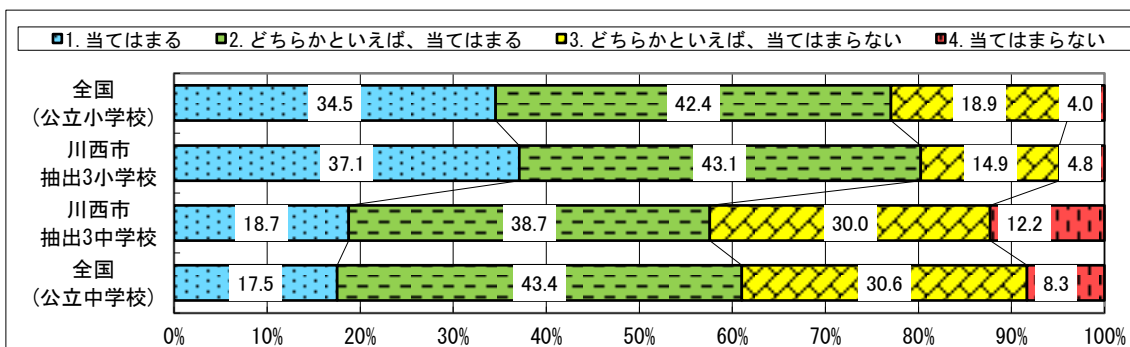
Q1. 普段の授業では、本やインターネットを使って、グループで調べる活動をよく行っていると思いますか



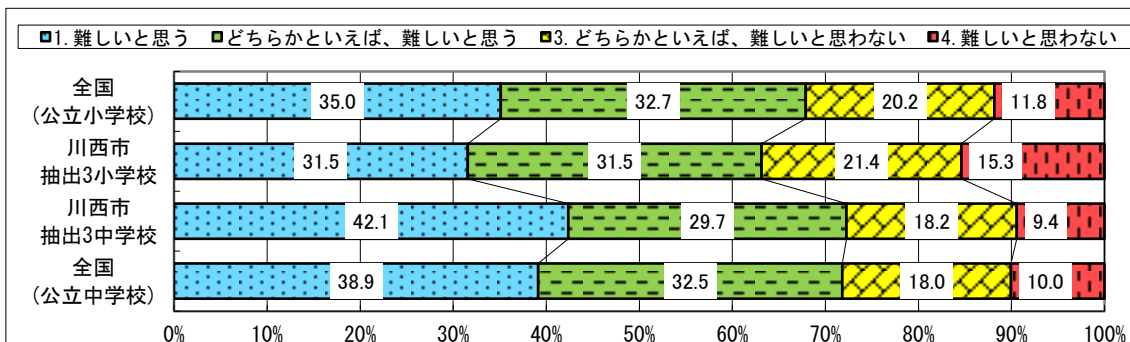
Q2. 普段の授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていると思いますか



Q3. 普段の授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていると思いますか

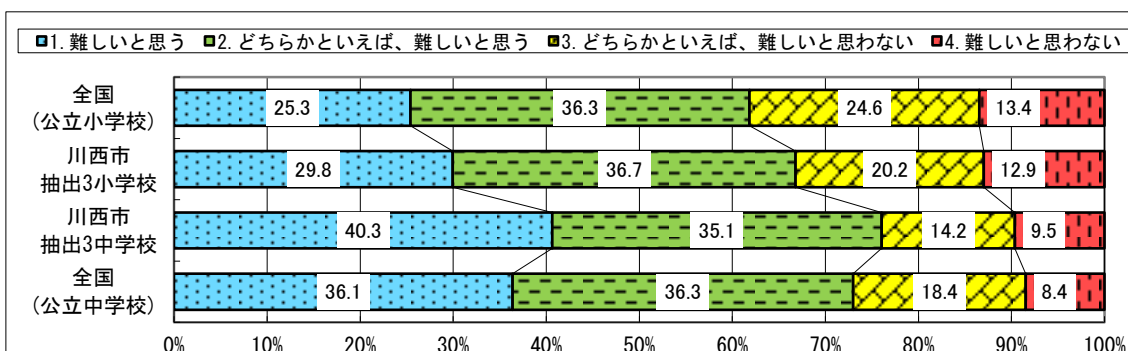


Q4. 400字詰め原稿用紙2~3枚の感想文や説明文を書くことは難しいと思いますか

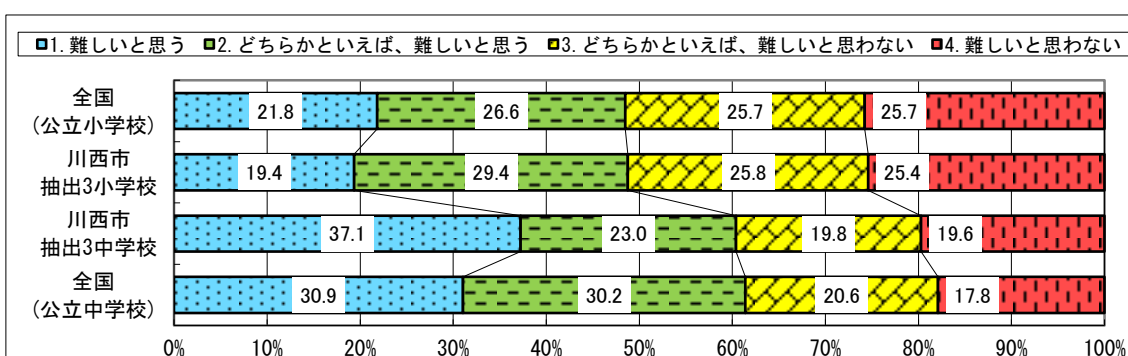




Q5. 学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思いますか



Q6. 国語B-3の問題にあるような、長い文章を読むことは難しかったですか



言語活動・読解力の領域に関する質問項目のなかで、「普段の授業では、本やインターネットを使って、グループで調べる活動をよく行っていると思いますか」という質問については、全国と比較すると川西市抽出3小中学校ともに下回っている。その他の質問項目については、同程度であった。

Q1及びQ3については、集団での学習活動についての質問項目であるが、Q1については、全国を下回り、Q3については全国と同程度の結果である。

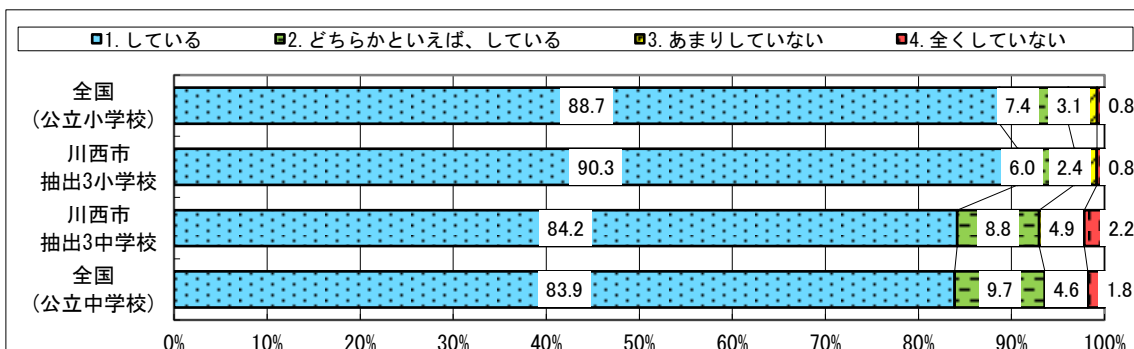
Q2及びQ3については、「話す」ことを意図した質問項目であるが、高い割合で確保されていると認められる。川西市抽出3小中学校を比較するとQ3については大きな開きがあるが、これは校種間の授業展開の差であると考えられる。

Q4及びQ5については、「書く」ことを意図した質問項目であるが、小学生と比較すると中学生の方が「書く」ことへの難しさを感じていることが認められる。

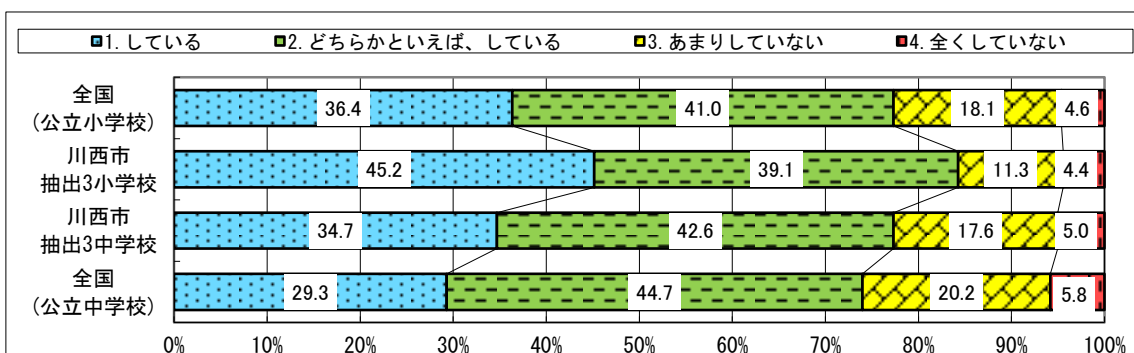
Q6については、「読む」ことを意図した質問項目であるが、これについても中学生の方が「読む」ことへの難しさを感じていることが認められる。

## 【生活習慣】

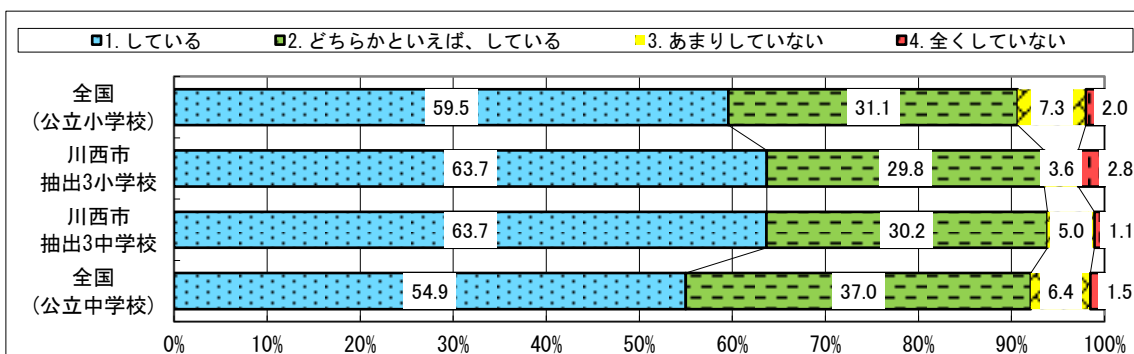
Q1. 朝食を毎日食べていますか



Q2. 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか



Q3. 毎日、同じくらいの時刻に起きていますか

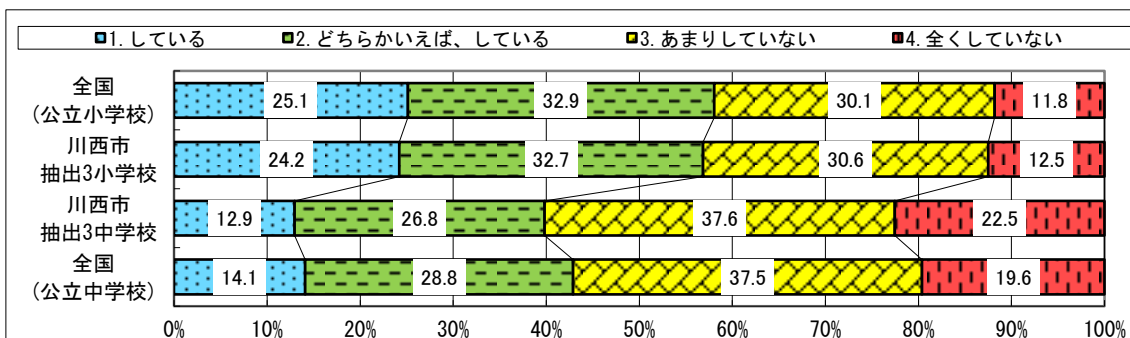


生活習慣の領域に関する質問項目は、Q2 の川西市抽出小学生は全国を上回る結果であったが、その他の質問項目はいずれも全国と比較すると同程度であった。

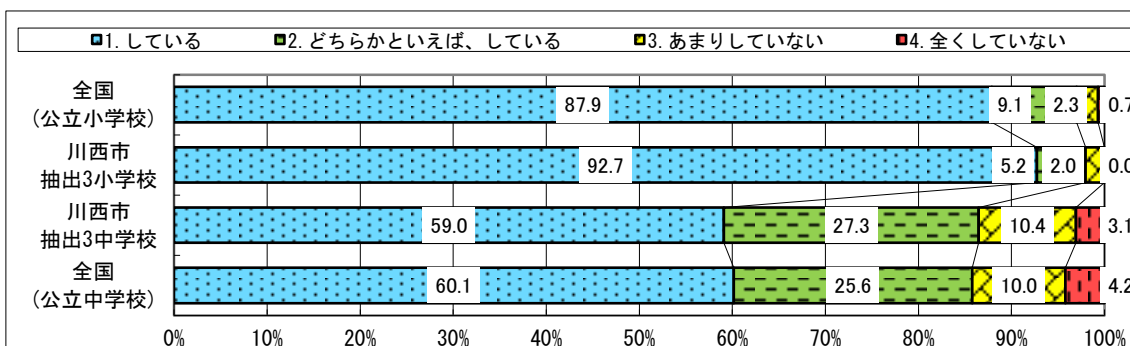
Q1「朝食」、Q3「起床時間」に関する質問に対しては、川西市抽出3小中学校ともに肯定的回答をした児童生徒が90%以上であった。しかし、Q2「就寝時間」の質問に対しての肯定的回答は、小学生では約84%、中学生では約77%となっており、就寝時間については「朝食」、「起床時間」と比較すると、安定していないという結果であった。

## 【学習習慣】

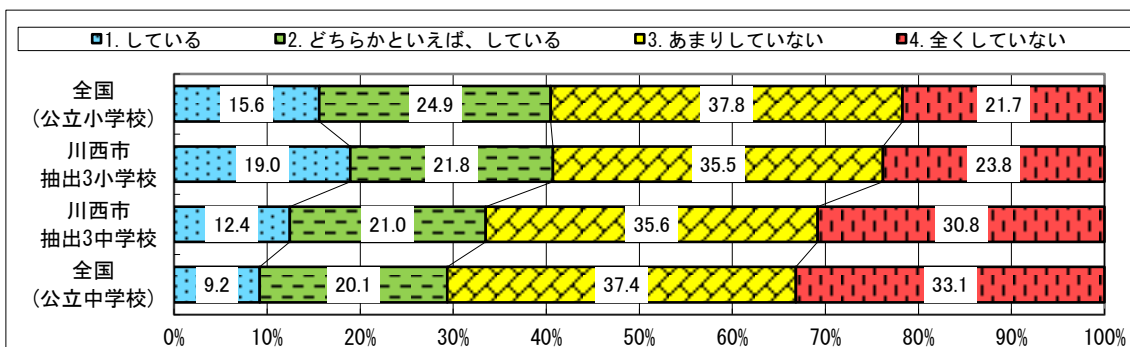
Q1. 家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか



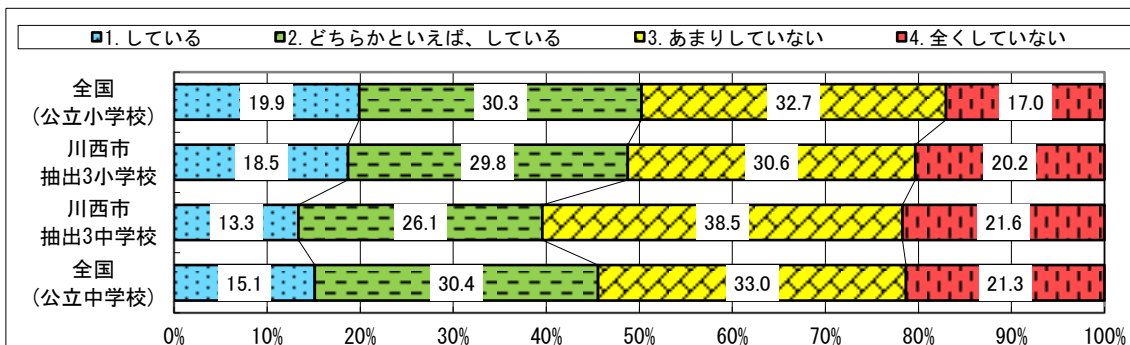
Q2. 家で、学校の宿題をしていますか



Q3. 家で、学校の授業の予習をしていますか



Q4. 家で、学校の授業の復習をしていますか



学習習慣の領域に関する質問項目は、全国と比較すると、川西市抽出中学生の復習に関しては下回る結果であったが、その他の質問項目はいずれも全国と比較すると同程度である。しかし「学習計画」、「予習」、「復習」の項目については、「宿題」の項目と比較すると肯定的回答の割合は低い。

川西市抽出3小中学校を比較した場合に、学習習慣に関する4つの質問項目について、いずれも小学生の方が中学生より肯定的回答の割合が高い。

### 【各教科への関心等】

各教科への関心等の領域に関する質問項目について、「当てはまる」・「どちらかといえば、当てはまる」の肯定的回答をした児童生徒の割合を以下に示している。

	川西市抽出3小学校			川西市抽出3中学校			川西市抽出小中の差		
	国語	算数	理科	国語	数学	理科	国語	算数 数学	理科
Q1. 勉強は好きですか	63% (63%)	68% (65%)	79% (82%)	55% (59%)	53% (52%)	62% (62%)	8% (4%)	15% (13%)	17% (20%)
Q2. 勉強は大切だと思いますか	90% (93%)	95% (93%)	88% (86%)	88% (90%)	76% (82%)	68% (69%)	2% (3%)	19% (11%)	20% (17%)
Q3. 授業の内容はよくわかりますか	80% (83%)	80% (79%)	84% (86%)	70% (71%)	63% (65%)	65% (64%)	10% (12%)	17% (14%)	19% (22%)
Q4. 授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	89% (89%)	94% (90%)	69% (73%)	76% (83%)	65% (71%)	49% (52%)	13% (6%)	29% (19%)	20% (21%)

※ ( )は、全国の数値。

Q1. 「勉強は好きですか」という質問に対しては、3教科とも川西市抽出小学生の方が「勉強が好き」と回答した割合が高く、算数・数学及び理科に関しては川西市抽出3小中学校の差が15%以上と大きな差である。

また、川西市抽出3小中学校ともに理科が好きと回答した児童生徒の割合が最も高いが、Q2. 「勉強が大切だと思いますか」、Q3. 「授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」という質問に対しては、肯定的な回答をした児童生徒の割合は国語、算数・数学と比較すると低いという結果であった。

全国と比較すると、川西市抽出中学生はQ2の数学、Q4の国語・数学において、全国を下回っている。

